

令和元年度 北海道羽幌高等学校 学校関係者評価票 集計

3月6日(金)実施 回答数5名

A:十分である＝3点 B:概ね十分である＝3点 C:不十分である＝2点 D:改善を要する＝1点

領域		評価の観点	自己評価(教職員)			学校関係者評価		
			達成状況	取組の適切さ	改善に向けた取組	自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ	ご意見
学校運営	組織運営	1 本校の学校教育目標や教育実践は、生徒の実態や保護者・地域住民の願いを踏まえたものとなっている。	3.35	3.35	・目的の再確認と見直しを図る。 ・学校内外の教育資源について再確認して積極的な活用を図る。 ・前年度、前々年度の反省を活かせるよう検証する。	3.20	3.60	・「〇〇は他校に絶対負けない」というアピールしたものが見えてこないように思う。 ・まだまだ魅力の発信が弱いように思う。
		2 目指す生徒像や育成を目指す資質・能力を踏まえ、学校内外の教育資源を活用した教育活動が実践されている。	3.30	3.40	・地域性(初山別村、羽幌町、苫前町)の豊かさを自覚できる授業を実践する。 ・行事や総合の授業等、担当者のみで企画から運営までを行っている現状がある。分掌でしっかりと議論して、組織として取り組める体制が必要である。	3.40	3.60	
		3 前年度の学校評価や反省事項に基づいて、教育活動の改善を適切に行っている。	3.30	3.25		3.20	3.60	
	教職員と服務規律向上	4 信頼される学校づくりに向けて、交通法規等の法令遵守や体罰防止など服務規律の保持及び危機管理に努めている。	3.65	3.60	・鍵、施設、PC等の取扱等の研修や積極的な情報発信を図る。 ・自分だけでなく周囲を巻き込んだ「ライフ・ワーク・バランス」に努める。 ・業務の精選も大事だが、その名の元に分掌で審議がなされていないようにも感じる。前年度からの引継ぎと各分掌等での審議が結果的には業務の効率化につながる。	3.40	3.20	・時間短縮も大切なことだが、人間対人間で話し合われて前進することが必要と思われる。さらなる研修を積み、生徒の資質向上に努めてほしいと思う。
		5 研修を積極的に推進し、実践的指導力の向上に励み、資質向上に努めている。	3.30	3.40		3.20	3.20	
		6 効率的な業務の精選・遂行とそのスケジュール管理に努めるなどして、「働き方改革」を進めている。	2.90	3.00		3.20	3.20	
教育活動	総務・教務	7 HPやメール配信、各種通信等で本校の教育活動を外部に積極的に発信している。	3.75	3.60	・地域行事の参加を全体に周知する必要がある。 ・週末課題を出しているが、生徒は十分に学習できているのか。 ・授業改善のための時間を作り出していく工夫を考える(教材研究の時間が思うようにとれない)。	3.60	3.60	・高校生でも家庭学習の勧めは必要なのか？ ・自ら学ぶことが大切だと思う。もっと自分で学ぶと言うことに自覚を持たせることが必要ではないか？ ・高校生なのだから勉強は自ら考えてやりましょう。 ・部活動で人間関係が芽生えることも挫折を覚えることもあると思う。良い経験につながることを望む。
		8 学校行事の公開や地域の行事等への参加を通して積極的に地域や関係機関・他校種等との連携に取り組んでいる。	3.60	3.60	・前期にも授業公開週間を設定しても良いのではないかと。 ・前期にも校内研修を実施しても良いのではないかと。 ・他の教科の取組を聞いたり、自分の教科にも繋がりを持たせる研修が必要では。 ・授業時数の確保(行事等の精選、シラバス)。	3.60	3.60	
		9 学校とPTAの連携が十分図られ、PTA活動も充実した取組になっている。	3.35	3.35	・他教科の取組を聞いたり、自分の教科にも繋がりを持たせる研修が必要では。 ・授業時数の確保(行事等の精選、シラバス)。	3.20	3.40	
		10 シラバスを活用した授業展開や観点別評価により学習評価を適切に行い、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図っている。	3.05	3.20	・教科横断的に行うには、きつかけや業務の軽減が必要。 ・HP、メール配信については、積極的に活用されている。	3.20	3.40	
		11 知識・技能の習得だけでなく、教科横断的に思考力や判断力、表現力などの活用力を育む授業を実践している。	3.20	3.20	・週末課題の実施や勉強方法を知るための校内研修や授業改善のための校内研修を。 ・部活動として積極的にHP発信や地域行事への参加を増やすべき(部活動通信で保護者も巻き込む)。 ・家庭学習をしなくても良い要因は我々にあるのでは。	3.20	3.40	
		12 自主的・意欲的に家庭学習に取り組む習慣を身に付けさせる工夫を行っている。	3.10	3.20		3.20	3.40	
	生徒指導	13 いじめ防止に向けた校内体制が確立されており、日常から生徒の状況把握及び未然防止・早期発見に努めている。	3.50	3.45	・学校行事すべてにおいて目的を全体で見直すべき。 ・生徒をもっと観察する姿勢やアンテナを高く張る習慣をつけるべき。 ・部活動等を通して学習習慣の構築を図る。	3.40	3.40	・勉強や部活動すべてにおいて高校生活がより良い思い出になるように後悔のない人生を過ごせることを望む。
		14 学校行事や部活動等を通して生徒が自ら考え仲間と協働する力を育んでいる。	3.35	3.40	・今よりも生徒自身がさらに自ら考えて動けるよう指導する。 ・LHR等や部活動で生徒と向き合う時間を作る。	3.40	3.40	
		15 各教科の授業や各種教室・講演会等を通して命や健康・安全の大切さを指導している。	3.45	3.55	・薬物乱用防止教室や献血の有効的な指導について考える。	3.20	3.20	
		16 ボランティア活動等の地域と連携した活動を通して自尊感情や自己有用感の高揚を図っている。	3.70	3.60		3.60	3.60	
	進路指導	17 生徒の自己実現に向け、3年間を見通した組織的・体系的な進路指導(キャリア教育)を行っている。	3.40	3.25	・全職員で本校の進路指導を共有できているのか課題である。 ・地域の資源を活用しているので、その継続を。 ・進路ガイダンスも「本気で進路を考える日」として設定され、生徒に有益な情報が今後も継続していくべき。 ・音楽系の進路は特殊な活動が多いので、先手を打ちながら準備を行いたい。 ・大学進学者には手厚い指導だが、就職や看護にはもっと早い時期に指導をしていくべきでは。	3.60	3.40	・生徒一人ひとりの進路に耳を傾けて、悔いのないように向き合って進めてほしいと思う。
		18 収集・分析した進路情報を進路ガイダンスや保護者説明会などを通して生徒や保護者に適切に提供している。	3.35	3.40		3.40	3.40	